

<総括>

出題数

現代文 1題・古文 1題

試験時間

75分

公衆衛生を推進するに際して、社会的な決定要因を考慮することなく個人の自己責任を追及する「自己責任論」の考えを批判することと、個人の主体的な努力を擁護して個人の責任の余地を確保することを両立させることの意義を訴えた評論文からの出題。

本文では専門的な議論が展開されており、また学術的な用語で表現されているため、読みにくいという印象を抱いた受験生も少なくなかったと思われるが、文章の内容やその展開は図式的に整理しうる。とはいえ、本文の部分的な内容を複雑に絡み合わせた関西大学方式とも言える選択肢の細部の検討・吟味には多くの労力と時間を割く必要があったと推定される。

漢字問題については、相変わらず難度が高いと言える。

本文には、意味段落毎の区切りや小見出しがあった。

<本文分析>

大問番号	一
出典 (作者・ジャンル)	『公衆衛生の倫理学—国家は健康にどこまで介入すべきか—』(玉手慎太郎・評論)
頻出度合 ・的中等	
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約5300字 約6頁 (前年約4700字 約4頁1/3)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1	記述式	やや難	漢字の書き取り問題 「蓋然」「熟慮」の2問
		問2	マーク式	標準	本文の部分的な論題について筆者が述べている内容を選択する問題 「ジェフリー・ローズの『責任』についての主張」が述べられた第1・2段落を丁寧に読み取る。
		問3	マーク式	標準	本文の部分的な論題について筆者が述べている内容を選択する問題 「自己責任論」という考え方に対する「批判」が述べられた第3・4段落を丁寧に読み取る。
		問4	マーク式	標準	本文の部分的な論題について筆者が述べている内容を選択する問題 「自己責任論の主張におけるコントロール可能性をめぐる議論」が述べられた第5～9段落を丁寧に読み取る。
		問5	マーク式	標準	本文の部分的な論題についての筆者の考えを選択する問題 「責任帰属一般」について述べられた第10～16段落を丁寧に読み取る。
		問6	マーク式	標準	本文の部分的な論題について筆者が述べている内容を選択する問題 「不健康は個人の行動の直接の帰結ではないという見方」について、筆者の考えが述べられた第17～21段落を丁寧に読み取る。 選択肢eについては、以下の観点から不正解とみなしうる。 「患者の行動変容～という問題」を指摘しているのは、本文中では筆者ではなくエリ・フェアリングである。 また、「社会的決定要因に基づく」議論が問われた設問であるため、「不健康」を「個人の行動」の「帰結」とみなす「自己責任論」と「同じく」という記述も不適切であると考ええる。
		問7	マーク式	やや難	漢字の書き取り問題 「冒頭」「概念」「頑健」「殺菌」「浸透」の5問
		問8	論述式	標準	本文の主題に関わる内容についての筆者の考えを説明する問題 (五十字以内) 「公衆衛生」のあり方について筆者の考えが述べられている本文の冒頭と末尾の内容を踏まえ、複数の配点ポイントを意識しながら、制限字数以内にまとめる。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・現代社会の諸問題や社会の特性について論じた様々な文章に触れておくこと。
- ・問題演習などを通じて、論旨の展開を的確にたどりながら、全体の主旨を精確に把握できる読解力を養っておくこと。
- ・漢字問題を除き本文中に「傍線部が無い」とは言え、傍線部に該当する部分や内容が本文中に見出されるので、まずはそれを意識し、さらに設問の意図を丁寧に検討して要求されている内容に関わる部分に忠実に選択肢を分析するという練習を積み重ねておきたい。
- ・関西大学の現代文では、漢字問題が多く出題され、しかも難度がきわめて高いので、これを確実な得点源とするべく、できる限り早い時期から語彙力の養成に取り組むことが重要である。漢字問題を得意とする受験生は、関西大学の入学試験では圧倒的に有利となることを肝に銘じておこう。

<総括>

出題数	現代文 1題・古文 1題	試験時間	75分
-----	--------------	------	-----

長編物語の一場面を、長文の前書きや比較的多めの注を付して読解させる、本学の定番の出題形式。設問も、傍線を付さずに、設問文や各選択肢に共通する表現を手がかりにして該当箇所を確定し、その箇所に含まれる重要表現や主体判定などを中心に解答する、本学の定番の形式である。
 例年 1300 字前後の長文が出題されてきたので、今回 6 割程度に減少したことが、全般的な傾向なのか否か注目されるものの、出題傾向は従来を踏襲している。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	『源氏物語 (若紫)』 (紫式部)
頻出度合 ・的中等	出典は頻出
分量 前年比較	分量 減少 ・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約 800 字 (前年約 1300 字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	作り物語	問1	マーク式	標準	「つつましき」の訳出、下二段の補助動詞「～たまふ」に着目した「思ひたまふる」の主体判定、尊敬表現に着目した「御覧じ知らば」の主体判定、がポイント。 和歌の直前の「中に小さくひき結びて」を踏まえて和歌の送り先を判定すること、「面影」の具体化、「来しかど」の「しか」が過去の助動詞であること、がポイント。 「はかなう」「かたはらいた」の訳出がポイント。 「なほざりに」の訳出、下二段の補助動詞「～たまふ」に着目した「思ひたまへなされし」の主体判定、「ふりはへ」の訳出、謙譲表現に着目した「聞こえさせむ方」の客体判定、注2の「手習ふ」の理解、がポイント。 「嵐吹く尾上の桜」の意味するところの理解、伝聞過去の助動詞に着目した「心とめける」の主体判定、「ほどのはかなさ」の訳出、がポイント。 「口惜しく」の訳出、「奉れ」の解釈、尊敬表現に着目した「のたまひ知らず」の主体判定、「語らへ」の命令形の理解、がポイント。 「思しのたまふさま、おほかたの御ありさま」の訳出、「言葉多かる人」の人物判定、主題に即した「いとわりなき御ほど」の解釈、がポイント。 注5を踏まえた「見たまへまほしき」の対象の理解、注2を踏まえた「浅き」の解釈、誰への「御返し」であるのかの理解、がポイント。 「いはけなげなりしけはひ」について、主語を明らかにしてという条件付きの現代語訳。
		問2	マーク式	標準	
		問3	マーク式	やや易	
		問4	マーク式	標準	
		問5	マーク式	やや難	
		問6	マーク式	やや易	
		問7	マーク式	やや難	
		問8	マーク式	標準	
		問9	記述式	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本文を丁寧に隅から隅まで読み解いていくというよりは、設問や選択肢を手掛かりにして本文を速読し、選択肢相互の異なる部分を見比べて正解を探る、という解答手順が要求されるものの、学習の初期からこのような練習をするのは望ましくない。序盤から中盤は、一般的な本文読解の学習を積み、その上で終盤に、本学独自の形式に慣れるように調整するのが望ましい学習手順である。